9課「好きなこと」

＜行動目標＞
サークルや交流イベントに参加したとき、自分の好みや趣味を話したり相手に質問したりすることができる。

＜3つのスモールトピック＞

ＳＴ１「いろいろな趣味」
趣味について話したり質問したりすることができる。
ＳＴ２「できること・できないこと」
情報をもとに、できることやできないことを話すことができる。
ＳＴ３「楽しい週末」
休みの日にしたことについて話すことができる。また、自分が知っていることの手順を説明することができる。

話してみよう

『できる日本語　初級』の学習は後半に入ってきました。学習者たちは日本語でいろいろなことが話せるようになってきて、自分の世界がだんだん広がってきていると実感しているころではないでしょうか。第９課のテーマは「好きなこと」です。１課では「趣味は音楽です」しか言えませんでしたが、ここではもっと詳しく話せるようになって、同じ趣味の人とも出会えるかもしれません。

【話してみよう】では、イラストや写真を見ながら、これから始まる課のテーマに学習者を導いていく役割を持っています。『できる日本語教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』の p.61 に質問例があるので、その質問を参考にしてみてください。

９課も７課や８課同様に「好きなこと」というテーマから、学習者に問いかけて【話してみよう】をすることもできると思います。

ここでは、イラストを使ったやり取りを見ていきます。

Ｔ　：ここはどこですか。
Ｌ１：山です。
Ｔ　：そうですね。Ｌ１さんは休みの日、山に登りますか。
Ｌ１：いいえ。
Ｌ２：どうして？
Ｌ１：私は山が好きじゃありません。大変です。
Ｔ　：そうですか。Ｌ２さんは？

Ｌ２：私は山へ行きます。
Ｌ３：どこの山？
Ｌ２：あー、高尾山へ行きました。高尾山はきれいでした。
Ｔ　：へえ、いいですね。Ｌ２さんは山が好きですか。
Ｌ２：はい。好きです。国で友達と山へ行きました。
Ｌ３：Ｌ２さんは富士山へ行きたいですか。
Ｌ２：はい、行きたいです。
Ｔ　：いいですね。

９課の【話してみよう】のイラストをきっかけにして、学習者の話を聞いてください。きっとやり取りの中から学習者自身の話が出てきます。【話してみよう】のねらいは、テーマに学習者を引き付けることと、それまでに学んだ日本語を用いて話すことにあります。教師は学習者が話せるように促したり、他の学習者に質問をしてもらったりしてください。９課の【話してみよう】では、自分の好きなことについて、もっと話したくなるように話をすすめていけたらいいと思います。

聞いてみよう

【話してみよう】が終わったら、【聞いてみよう】に移ります。ＣＤを聞くときには、学習者に聞くことに集中してもらいましょう。９課の【聞いてみよう】は少し長いですが、「はじめまして」と会話が始まっていることから、学習者は聞きながら（あ、自己紹介をしている）とわかります。ＣＤを聞いたあとで、大体の流れ（趣味の話をしている）をつかみ、ST1に入っていってください。

ＳＴ１　いろいろな趣味

できること：趣味について話したり質問したりすることができる。

チャレンジ！

状況イラスト：パクさんたちは地域の交流会に参加して、日本人のボランティアの西川さんや木村さんとおしゃべりをしています。
今日は初めて西川さんたちと会ったので、お互いのことを紹介しています。

1-1

コマイラスト：ボランティアの西川さんは、隣に座っていたメアリーさんに話しかけています。西川さんはメアリーさんがどんなことに興味があるのかを知りたく、趣味を聞いています。

１課ＳＴ3 で相手の趣味を聞くやり取り「趣味は何ですか」「音楽です」を練習しました。学習者たちはきっとスムーズにコマイラストを見ながら、話せると思います。

１課で自分の趣味を紹介するとき、「趣味はサッカーです」でしたが、9 課ＳＴ1 では「趣味はＶることです」のように動詞を使って話すことで、「趣味はサッカーを見ることです」なのか「趣味はサッカーをすることです」なのかも相手に伝えることができるようになります。また、9 課では趣味が何かを１文で話すだけではなく、「趣味はＶることです」に「特に～」と続けたり、「いつするか」、「誰とするか」、「どこでするか」、「頻度はどのくらいか」などを付け加えて話したりすることで、自分の趣味についてよく多くの情報を相手に伝えられるようになると思います。自分が言いたいことの表現の幅が広がっていきます。

学習項目　Ｖることです

言ってみよう　別冊1

ここでは練習１、練習２があります。動詞の活用は 7 課のテ形に続いて 2 つ目となります。練習１では動詞の辞書形を練習します。教科書の２８２ページに動詞の活用表がありの

で、そこを見ながら、どんな変化になるのかを確認します。このとき、動詞の３つのグループがどのように分けられているかということを復習してから辞書形の作り方を導入するといいと思います。

そのあとで、動詞のグループ別に口頭練習を行います。1 グループの動詞の変化は五十音表があると、「ます」の前のい段がう段に変わるというのが目に見えて、わかりやすいです。2 グループの辞書形は「ます」をカットして、「る」を加える、と紹介すると、テ形ほど複雑ではないとわかって、学習者も安心するでしょう。

口頭練習の際には、動詞を書いたフラッシュカードを用いて、教室全体の練習や、プリント、カードに動詞を書いてペアでの変換練習などいろいろな方法があります。

こんなふうに

ＦＣの口頭練習だけではなく、このようなシートを Excel で使って、学習者同士のペアで練習をしてみました。2 人ペアになって、1 人がアトランダムに動詞を言い、もう一人は聞いた動詞の辞書形を答えるという練習です。教師はその間、教室を回って、練習がうまくいっているかどうか、耳を「ダンボ」にして聞いていました。

第9課ST1			
じしょけい 辞書形			
1グループ　～iます→u		2グループ　～ます→～る	
うた 歌います		た 食べます	
習います		ね 寝ます	
かきます		み 見ます	
はたら 働きます		お 起きます	
ひ 弾きます		か 借ります	
泳ぎます		き 着ます	
はな 話します		あ 開けます	
か 貸します		し 閉めます	
出します		あつ 集めます	
も 持ちます		み 見せます	
の 飲みます			
よ 読みます		3グループ	
と 撮ります		します	
と 取ります		うんてん 運転します	

練習２は単文での練習です。ここにあるキューに加えて、これまで習った言葉を使ってキューが増やせると思います。例２は２つの趣味を紹介するときの言い方の練習です。ここでぜひ学習者の趣味についても単文で口慣らしの練習として言ってもらいましょう。

言ってみよう　本冊1-1

☺ マークがあります。学習者自身の趣味を言ってもらいましょう。ただ趣味によっては、「どんな～か」が使えない場合もありますので、そのときには教師がフォローしてください。

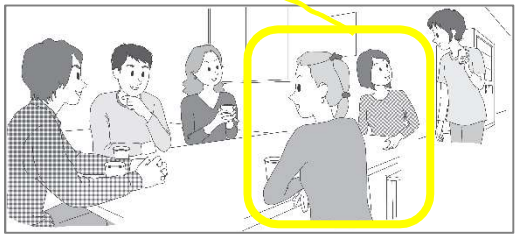
他の【言ってみよう】と同様に、練習の際には、キューをただ代入するのではなく、会話の流れを理解してやり取りの練習をしてください。この【言ってみよう】1-1のやり取りは一文が短く、相手の趣味を聞いてそれに答えるという形なので、わかりやすいと思います。

こんなふうに

インターネットのサイトに無料イラストがあるのを見つけて、それを利用して1のキューを右のようにして絵カードを作ってみました。

チャレンジ！

1−2



コマイラスト：ボランティアの木村さんが隣に座っているアンナさんに趣味を聞いています。

【チャレンジ！】1−1で「趣味は何ですか」「趣味は本を読むことです」の練習をしているので、学習者はコマイラストを見たら、すらすらと日本語が出てくると思います。「小説」はここでの初出の語彙ですが、「本を読む」から、本にはどんなジャンルがあるか、有名な作家の名前を聞いていきながら、その作家が書いているジャンルは「小説」というように、語彙の紹介ができると思います。ここでは、自分の趣味を一文で紹介するだけではなく、特に何が好きかということまでを紹介してもらいます。そのように話すことによって、相手とのやり取りが続くことになると思います。

学習項目　Vることです

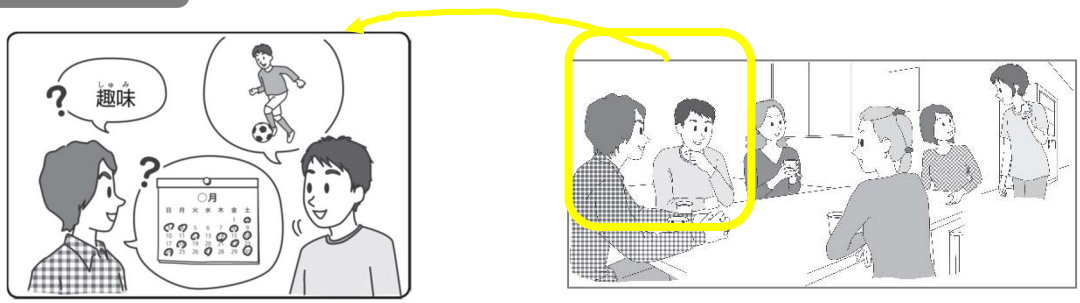
言ってみよう　本冊1−2

ここでは別冊の練習はないので、直接、本冊の練習に進みます。☺マークがあるので、自分のことも言ってもらいましょう。ここここでは、必ず「特に〜」を使わなければならないということではなく、趣味を話すときに、どんな情報を追加したらいいかを考えることがで

きたらと思います。例えば、趣味が「ジョギングをすることです」だったら、「朝、ジョギングをします」「友達とジョギングをします」のように言うことができると思います。

チャレンジ！

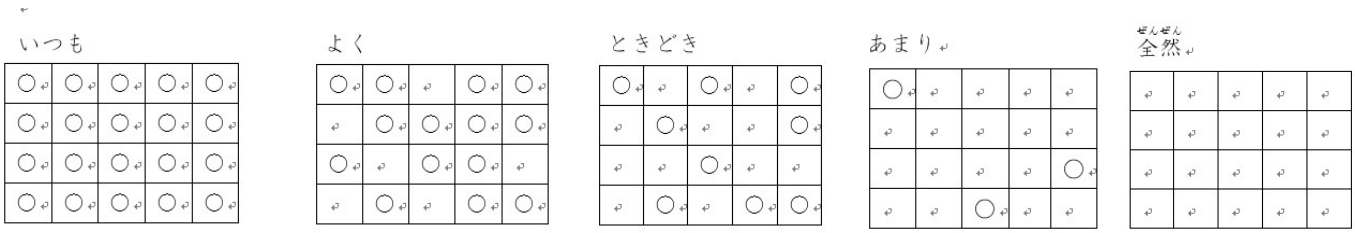
2



コマイラスト：マルコさんは隣に座っている西川さんに趣味を聞いています。マルコさんの趣味はサッカー（1 課 ST3 のやってみよう）なので、西川さんの答えを聞いて、さらに話を聞きたくなってコマイラストのように質問を続けています。

【チャレンジ！】で、マルコさんの吹き出しの中にあるカレンダー内の○が、サッカーをする日を表しているというのがわかるように、指で指してあげるといいと思います。ＣＤを聞いたあとで、マルコさんが何と言っていたかを確認してください。

ここの学習項目は、「よく」だけではなく「いつも・よく・ときどき・あまり・全然」（頻度の副詞）なので、［言ってみよう 別冊］の前に、「いつも・ときどき・あまり・全然」も導入してください。その際、頻度を％で伝えたり、例のようにカレンダーに頻度を○で示したもの（下記参照）を使ったりするとわかりやすいと思います。



それから、ここで扱う頻度を表す他の副詞も紹介すると、学習者もその頻度の違いというのがわかると思います。

学習項目　いつも・よく・ときどき・あまり・全然

言ってみよう　別冊2

練習１は右の□の中にある言葉を、自分のことに合わせて使う練習です。例２は、「あまり」「全然」を用いる際には、否定形が用いられることを表しています。□の中の言葉を板書やカードなどで前に示しておき、教師の口頭のキューを聞いて、自分のことで答えるという練習ができます。

練習２はやり取りでの練習です。①～③は答えが固定されていますが、口が慣れてきたら、ぜひ自分のことで答えてもらってください。

こんなふうに

右のようなシートを作成して、
ペアで練習をしました。
ここには、名詞だけを載せてあります。
学習者はこの名詞にあった動詞を使って
ペアの相手に質問をします
自分で聞きたいことを聞く欄も設けて
あります。練習のやり取りを聞いて
いると、

Ｌ１：Ｌ２さんはよくお酒を飲み
　　ますか。
Ｌ２：はい、よく飲みます。
Ｌ１：え、私もよく飲みます。じゃ、今

などのように、学習者同士で日本語の
やり取りを楽しんでいました。

第９課ＳＴ１

	いつも	よく	ときどき	あまり	ぜんぜん
テレビ		○			
映画				○	
雑誌					
コーヒー					
スポーツ					
料理					
買い物					
掃除					
電話					
メール					

例１）Ａ：Ｂさんはテレビを見ますか。
　　Ｂ：はい、よく見ます。

例２）Ａ：Ｂさんは映画を見ますか。
　　Ｂ：いいえ、あまり見ません。

チャレンジ！

3

コマイラスト：西川さんの答えを聞いたマルコさんが自分の趣味を話しています。

【チャレンジ！】3は、2の続きなので、2から【チャレンジ！】をすると、会話の流れが

よくわかります。ここでは3のコマイラストのやり取りをご紹介します。

Ｔ：（マルコさんの吹き出しを指して）

Ｌ：私の趣味もサッカーです。今、サッカーをしません。

Ｔ：（西川さんの吹き出しを指して）

Ｌ：一緒にサッカーをしませんか。

Ｔ：いいですね。皆さん、マルコさんの趣味はサッカーです。マルコさんはよくサッカーをしますか。

Ｌ：いいえ、しません。

Ｔ：そうですね。（もう一度吹き出しを指しながら）マルコさんの趣味ですが、今、全然しません。ＣＤを聞きましょう。

というようなやり取りを経てから、ＣＤを聞くと、学習者が「でも」に注目がしやすくなると思います。「～が、～」は４課ＳＴ２7で学習しています。

学習項目　でも

言ってみよう　別冊3

別冊にあるキューはＳＴ１のテーマと関係がある内容になっていますが、練習では数を多くするためにテーマから離れた内容の文を用いて練習するのもいいと思います。

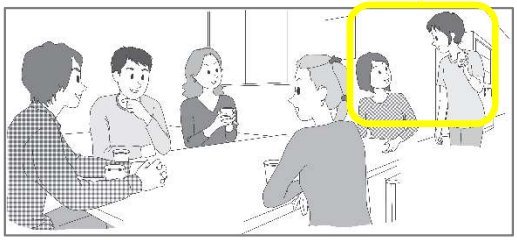
「昨日、映画を見ました。でも、」のように、「でも」に続く文を考える練習も考えられます。『わたしの文法ノート　初級』p.55 の４番も参考にしてください。

言ってみよう　本冊2 3

ここでは、例１）と例２）と２通りの会話の展開が紹介されています。①～④の練習が終わったあとは、自分の趣味のことも話してもらいましょう。

チャレンジ！

4



コマイラスト：木村さんがパクさんに趣味を聞いています。実は、木村さんもときどき映画を見るので、趣味が映画だと言ったパクさんに興味を持って、パクさんの話を聞いています。

【チャレンジ！】の際、学習者はパクさんの吹き出しを見て、「水曜日と土曜日に見ます」と言うでしょう。これも間違えではありません。ここでは、「1 週間」が初出なので、次のようなやり取りをしながら、言葉を紹介してください。

Ｔ：(パクさんの吹き出しの曜日のところをずっと指しながら)
Ｌ：日曜日から土曜日まで？
Ｔ：はい、日曜日から土曜日までは「1 週間」です。(板書する)
Ｌ：いっしゅうかん。
Ｔ：はい、1 週間（カレンダーの○があるところを指して）
Ｌ１：水曜日と土曜日
Ｌ２：２にち？
Ｔ：はい、二日（ふつか）です。
Ｌ２：ふつか。
Ｔ：じゃ、ＣＤを聞きましょう。

学習項目　［期間］に［～回、冊、本］　助数詞

言ってみよう　別冊4

ここでは練習１、練習２、練習３があります。

練習１では「～に～回」のほかに、「～に１、２回」「～に３、４回」などの言い方も練習します。キューは４個ですが、他にもこれまでに習った言葉を使って、キューが考えられるので、ぜひ増やしてみてください。ここでも、練習をしながら、自分のことも言ってもらいましょう。

練習２はやり取りの練習です。①～④の練習のあと、教師が A のキューを口頭で言い、それを使って、ペアの相手に聞くという練習ができます。例えば、

Ｔ：旅行します。

Ｌ１：Ｌ２さんは１年に何回くらい旅行しますか。
Ｌ２：1 年に１回くらい、旅行します。
Ｔ：山に登ります。
Ｌ３：Ｌ４さんは１カ月に何回くらい山に登りますか。
Ｌ４：うーん、全然登りません。
Ｔ：LINE を見ます。
Ｌ５：Ｌ６さんは１日に何回くらい LINE を見ますか。
Ｌ６：うーん…1 日に 10 回くらい見ます。

練習３では、これまで出てきた助数詞（枚：6 課ＳＴ１、時間：4 課ＳＴ１）に加え、新たに「冊、杯、本」が出てきています。どんなときにどのような助数詞を使うかということも合わせて紹介してください。特に「本、杯」は音の変化があるので、注意してください。（8 課の道しるべ p.7 に紹介してあります。）教科書 p.287 に「ものの数え方」の表があるので、参考にしてください。

こんなふうに

どんなときに、どんな助数詞を使うのかを下記のようなプリントを作成して、整理してみました。点線の下にあるイラストは、同じ助数詞を用いる例として示してあります。

言ってみよう　本冊4

ここでのやり取りの内容はそれほど難しくないので、ペアでの練習では、教科書を見ないで練習することもできると思います。☺ もお忘れなく。

【チャレンジ】1-1の状況イラストの説明（この『道しるべ』の p.3）に、「日本人ボランティアの西川さん」と書いてあります。これをご覧になっている方の中には「へえ、こんな人、いたんだ！」と思われたかもしれません。教科書の p.14 に登場人物のイラストがあるので、ぜひご参考ください。

登場人物に関する情報が、教科書の中のあちこちで見られます。例えば、教科書 p.168 の【もう一度聞こう】では、木村さんが「ときどき家で DVD を見る」と言っていることから、木村さんが映画に関心があるということがわかります。（それで、【チャレンジ】4では、木村さんがパクさんに「よく映画を見ますか」と聞いています）もちろん、このような情報は授業をする際に必須の情報ではありませんが、このようなこともわかると、場面の中でその文型がなぜ使われているのかという理解につながると思います。

やってみよう

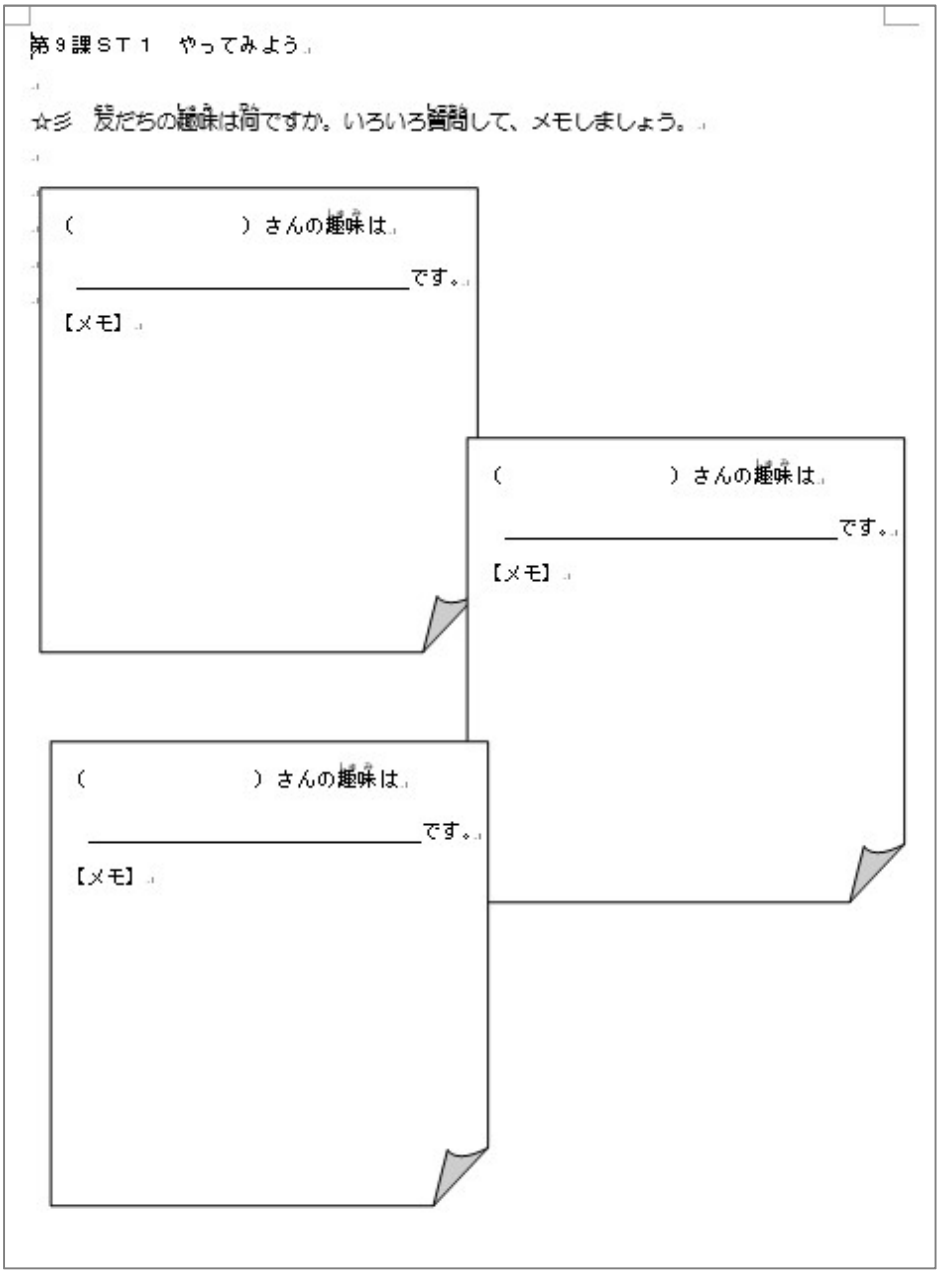
ここでは趣味を話すとき、「趣味は何ですか」「音楽を聞くことです」で終わらず、さらにどんなことを話したらいいかや、相手にどんなことが質問できるかを聞きます。ＣＤを聞いて、表を埋めて終わりではなく、会話ごとにどんな質問をしていたかなどを聞いていくと、次にクラスメイトの趣味を聞くときにどんな質問を使ったらいいかというヒントになります。

例えば、例の会話では、マルコさんがメアリーさんがどんな質問をして、「1 カ月に１、２回行く」ことがわかったかと聞いてみてください。「よく美術館へ行きますか」という質問から、ここで学んだ頻度の副詞を使って質問ができることに学習者が気がつきます。また、①では、木村さんが「りんごのケーキを作る」と答えたのは、ワンさんの「どんなお菓子を作りますか」という質問からでした。教師が聞いたあとで、学習者が答えた質問を板書して残しておくと、その後のタスクでは、学習者がその質問を使うことができます。
趣味を聞くだけではなく、会話の中で相手に自分が知っている情報を伝えていたり、相手を誘っていたりしていることにも注目してください。

■ ここではペアで話を聞くよりも、３、４人くらいのグループで話を聞いたほうが、いろいろな質問が出てきて、楽しく話せるようです。また同じ趣味の人がいることがわかって、それまで知っていたクラスメイトの違う一面が見えたりする時間にもなります。

こんなふうに

話を聞くときに、下記のようなシートを配布して、クラスメイトの話を聞き合いました。


第９課ＳＴ１　やってみよう

☆彡　友だちの趣味は何ですか。いろいろ質問して、メモしましょう。

（　　）さんの趣味は

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

【メモ】

（　　）さんの趣味は

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

【メモ】

（　　）さんの趣味は

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿です。

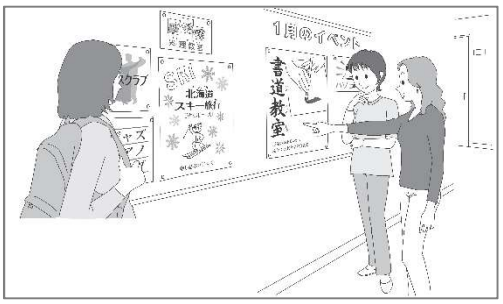
【メモ】

ＳＴ２　できること・できないこと

できること：情報をもとに、できることやできないことを話すことができる。

チャレンジ！

状況イラスト：メアリーさんとパクさんは学校の掲示板に貼ってあるイベントのポスターを見ながら話しています。掲示板にはスキー旅行や書道教室の参加者募集のポスターが貼ってあります。



1

コマイラスト：パクさんが掲示板にスキー旅行の参加者募集のポスターがあることに気が付き、メアリーさんに話しています。メアリーさんはパクさんがスキー旅行に興味を持ったことから、パクさんにスキーができるかと聞いています。

【チャレンジ！】では、パクさんがスキー旅行のポスターを見て、興味を持ったというところに注目をしてください。メアリーさんはパクさんが「参加したい」と言ったことから、「パクさんはスキーができますか」と聞いています。

学習項目　Ｎができます　Ｖることができます（能力）

言ってみよう　別冊1

ここでは練習１、練習２、練習３があります。

練習１では「N ができます」の練習です。練習２では「V辞書形+ことができます」、練習３ではやり取りの練習となっています。

また、練習２の例２にあるように、自分の能力について「V辞書形ことができます」と言うことは面接以外の場面では、あまり言うことがないことから、ここでは、「私はVることができません」という練習になっています。「上手」は 8 課 ST2 で既出の形容詞ですが、練習２の④では「マルコさんは上手に歌を歌うことができます」のように副詞的な用法で使わ

れています。これは初中級 7 課 ST2 で学習しますが、ここでは「上手に」に限定して使用しています。もし興味を持った学習者がいたら、このような形容詞の用法もあると紹介してもいいと思います。また、自分の母語を用いて「ベトナム語ができます」のようには言わないことに注意をしてください。

言ってみよう　本冊1-1

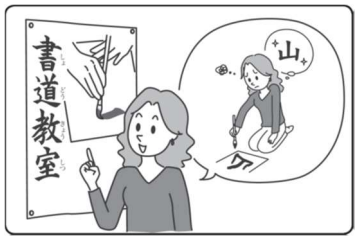
ここでは、掲示板に貼ってあるいろいろなイベントのポスターを見ながら、話しているやり取りの練習をします。

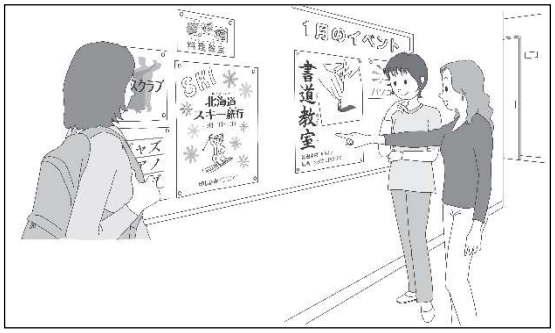
1-1の例が「スキーができますか」のように「N ができます」となっているので、1-1が「N ができます」、1-2が「V 辞書形ことができます」というように分かれているのかと誤解されがちなのですが、そうではないのです。1-1では、いろいろなイベントのポスターを見て、友達がその中の一つのイベントに参加したいと言ったのを聞いたとき、相手にそれができるのかと聞く際に「Nができます／Vることができます」を用いています。

ここでは「参加します」「入ります」の助詞は「に」が使われることにも注意を促してください。

チャレンジ！

1-2





コマイラスト：メアリーさん（アメリカ人で、今、日本語を勉強しながら仕事もしている会社員）は、掲示板に貼ってある書道教室のポスターが気になっています。漢字を上手に書きたいという気持ちがあるようです。パクさんも少し気になっているようなので、メアリーさんはパクさんに一緒に行こうと誘っています。

【チャレンジ！】1-2の状況イラストは1-1のときと同じですが、【チャレンジ！】をするときには、もう一度状況イラストで、今、メアリーさんとパクさんが何をしているか状況を確認してから、【チャレンジ！】に入ってください。

【チャレンジ！】をするとき、コマイラストの吹き出し内のメアリーさんの表情に注目をしてもらうといいです。メアリーさんは「漢字を書くことができない」からイベントに申し込むと言っています。できるようになりたいなと思って、教室やイベントに参加したいと話

しています。その教室やイベントに参加する理由として、「～できません」を使っています。

学習項目　Ｎができます　Ｖることができます（能力）

言ってみよう　本冊 1-2

ここでは、掲示板に貼ってあるいろいろなイベントのポスターを見ながら、話しているやり取りの練習をします。例を読む際には、最初の A の「あ」は、掲示板でイベントを見つけて「あ、」と言っています。驚きを持って読んでもらってください。

またポスターの下に文字のキューがありますが、クラスによってはここを見ないで、ポスターからどんなことが言えるかを教師と一緒に考えながら、練習するのもいいと思います。

やってみよう

学習者に合わせて、ＣＤを聞く前に、簡単にどんなポスターがあるかざっと見ておくのも一つの方法です。料理教室のポスターは２つあります。２つの教室の違いはどこかを聞いておくと、ＣＤを聞いたときにその違いに注目しやすくなることもあります。（もちろんそのまま聞いて、学習者自身が違いに注目できることが大切です！）ＣＤを聞いたあとで、答えを聞く際、どうしてその答えを選んだのか、ヒントになった部分も一緒に学習者に聞いてみてください。教科書にあるイラストを大きくして、ＣＤを聞くと、実際に貼ってあるポスターを見ながら会話をしている雰囲気が出ます。

ＣＤを聞いたあとで、１の会話にあったパクさんの「見て見て」や２の会話で木村さんがメアリーさんに「そこよりここの料理教室のほうがいいですよ」と勧めている表現に注目すると、あとでタスクの時に学習者が使うことができると思います。

■ タスクの指示文には「あなたの町にはどんなイベントや教室がありますか」とあります。ここでは、それぞれの場所で行われるイベントや教室の情報を使って、タスクを行いましょう。ちょうどいいタイミングで、町のイベントや教室があったら、ぜひ生の情報を用いて【やってみよう】ができるといいと思います。そして、学習者に実際にイベントや教室に参加してほしいと思っています。もし、イベントがない時期だったら、【言ってみよう】【やってみよう】のイラスト（『教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』を使って作成）を使って会話練習をしてもいいと思います。

例）

こんなふうに

海外で教えているのですが、「日本へ旅行に行ったとき、どんな教室に参加したいですか」「今度、日本へ行くとき、どんなツアーに参加したいですか」と聞いて、クラスメイト同士で話をしてもらいました。その際に、下記のようなシートを作成しました。それぞれ関心が違うので、誰が何を選んだかを聞いて、興味深そうでした。

ＳＴ３　楽しい週末

できること：休みの日にしたことについて話すことができる。また、自分が知っていることの手順を説明することができる。

チャレンジ！

状況イラスト：休み明けの教室で、
クラスメイトと一緒に週末の話をしています。
ワンさんはパクさんに週末、何をしたか聞いています。

1

コマイラスト：ワンさんはパクさんに週末、何をしたか聞いています。パクさんは週末にしたことを話しています。ワンさんもスマイル（『できる日本語』に登場している音楽グループの名前）に興味を持っているので、パクさんがスマイルが好きなのかを聞いています。

【チャレンジ！】のコマイラストは、文型を示したイラストではなく、ある状況の中でどのような会話が行われているかを表しているイラストです。【チャレンジ！】1を行う際には、1 枚目の【チャレンジ！】で終わらず、2 枚目の内容も一緒に見てください。ここでは、ワンさんもスマイルに興味があるようで、「パクさんはスマイルが好きですか」と質問しています。パクさんは「はい、好きです」と答えるだけではなく、「1 年に２、３回コンサートに行きます」と答えています。ST1 の学習項目が自然にスパイラルで復習できるようになっています。学習者が習ったことをうまく使っていたら、ぜひほめてあげてください！

学習項目　Ｖて、～

言ってみよう　別冊1

学習者に合わせて、別冊の練習をする前に、テ形の復習などをして、単文の練習に入るといいと思います。また、過去の文でも、文中の動詞にはテ形を用いることも合わせて紹介してください。⑥⑦⑧は学習者自身のことで言う練習です。

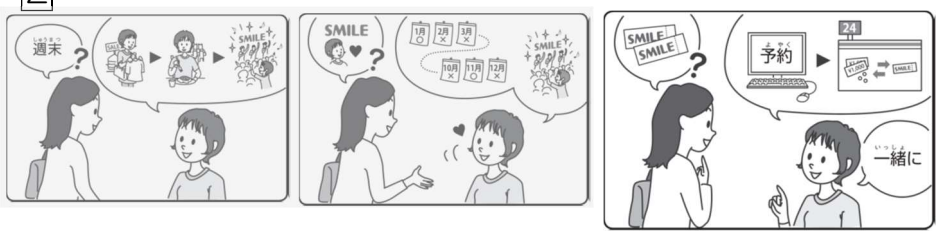
言ってみよう　本冊1

ここでは、☺マークがあるので、ぜひ学習者に週末何をしたかを話してもらいましょう。学習者たちは「友達と会って、～～～」と、複文で話せるのが楽しそうです。また、それが日本語がうまくなったと実感できるようです。

ときどき、「週末、どこへも行きませんでした」という学習者がいて、話そうとしないことがあります。そんなとき、皆さんはどうされますか。私は「ああ、私と同じですね。〇〇さんは家で何をしましたか。それを話してください」と言うことが多いです。そうすると、ある学習者は少し考えてから「ええと…日本語を勉強して…」と言い出しました。それを聞いた他のクラスメイトからは「おおー」というどよめきが出たり、教師は「いいですね！」とコメントを出したりしています。その学習者が続けて「…料理を作って、テレビを見ました」と言い終わると、「〇〇さんはどんな料理を作りましたか」という質問が自然に出てきました。

チャレンジ！

2



コマイラスト：パクさんがスマイルのコンサートに 1 年に２、３回行くということを知ったワンさんは、自分も行ってみたいのでパクさんにチケットの買い方を聞いています。パクさんはチケットの買い方を紹介し、ワンさんに今度一緒に行こうと誘っています。

【チャレンジ！】では、ワンさんがスマイルのコンサートに行きたいと思っていることから、チケットの買い方をパクさんに聞いているところに注目してください。パクさんがチケットの買い方を説明している吹き出しの中にある「予約する」「お金を払う」は新出語彙なので、フォローをしてください。

学習項目　どうやって

言ってみよう 別冊2

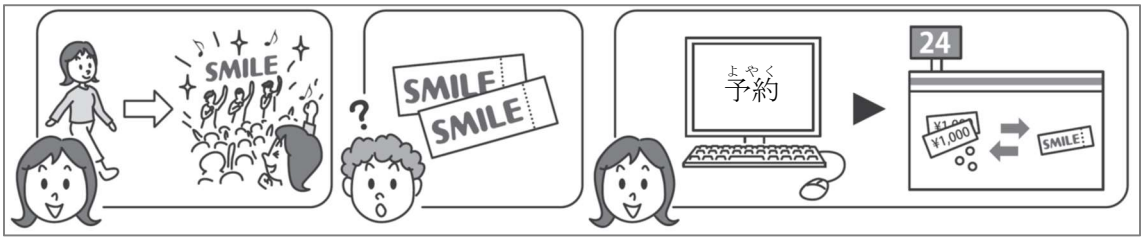
別冊の練習は単文の練習が多いのですが、ここでの学習項目は「どうやって」なので、AB での短いやりとりの練習となっています。

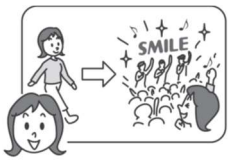
言ってみよう 本冊2

ここではキューがイラストで示されています。PDF に解答例がありますが、練習の際は必ず通りでなければならないということもありません。イラストから考えられる日本語だったらいいと思います。

ある教室での練習風景をご紹介しましょう。

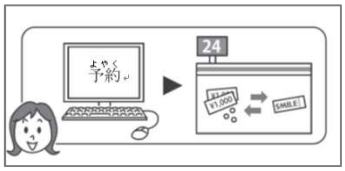
例





T：（例の 1 枚目のイラストを見せながら）週末、何をしましたか。
L：スマイルのコンサートに行きました。

T：いいですね。私もコンサートに行きたいです。でも…
（2 枚目のイラストを見せて）
L：チケットの買い方がわかりません。
どうやってチケットを買いますか。



T：（3 枚目のイラストを見せて）
L：インターネットで予約して、…
T：（右のコンビニのイラストを指しながら）チケットを買います。お金を払います。
L：お金を払います。
T：いいですね。（もう一度イラストを指して）
L：インターネットで予約して、コンビニでお金を払います。

このように、イラストを見ながら、①～③を教室全体で、練習をしたあと、ペアでの練習

に入ります。全体での練習の際には、①の「～で（乗り物）に乗る」や「～で（乗り物）を降ります」の助詞をもう一度確認、②の新出語彙の「見せます」の紹介、③の「～に参加する」や「～に申し込む」の助詞や動詞の復習、新出語彙の「言います」の紹介と「話します」との違いを確認しています。

この【言ってみよう】の会話例のようにやり取りが長いときは、特に、会話の流れを理解してもらうほうが、学習者に「難しそう」、「たくさん代入しなくちゃいけなくて大変！」と思わせずに、楽しくテンポよく練習が進められると思います。

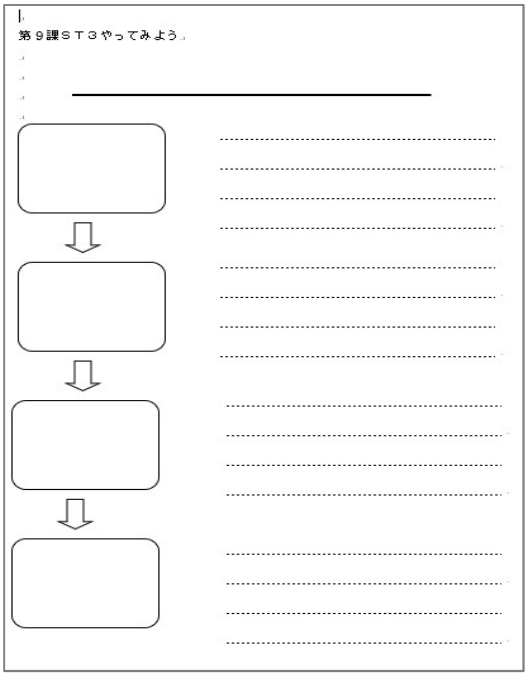
やってみよう

会話を聞いて、どの順番だったかをイラストの右上の□に数字を書きます。この順番を確認して終わりではなく、会話の中にどのような表現があったかを学習者と一緒に確認をしてください。①では、ナタポンさんが新宿のレストランで食事をしたことを話しています。ナタポンさんが行ったレストランはどんなところだったか、どこにあるかなどを教師が聞いてみてください。「レストランは 53 階でしたから、景色がとてもきれいでした」「新宿駅から歩いて 5 分くらいです」などのように、以前習ったことをもう一度思い出せるきっかけになると思います。

■　ここでは学習者が好きなことを紹介します。例えば、週末よくする好きなことのやり方やよく行くところへの行き方などなどいろいろあると思います。学習者が発表するだけではなく、教師も一緒に紹介するといいと思います。

こんなふうに

このようなシートを作って、学習者に好きなことを紹介してもらいました。中には ppt に写真を貼り、それを見せながらクラスメイトに紹介していた学習者もいました。



できる！

話読聞書

この課の【できる！】は、「交流イベントに参加しましょう。そして、新しい友達を作りましょう。」です。新しい友達に出会ったとき、自分を知ってもらうために、自分がどんなことに興味を持っているかということを話すことがあると思います。そのときに、自分の趣味の話をして、自分を知ってもらい、周りの人とつながっていってほしいと思っています。

９課の「話読聞書」のテーマは「私の趣味」なので、【できる！】と【話読聞書】を一緒に行うということもできます。

ここに【できる！】の実践例をご紹介します。

・【話読聞書】で話してから書いたものを冊子にしてお互いの趣味を読んで、さらに興味がある人のところに行って質問する。
・それぞれの趣味の写真を見せながら、輪になって自分の趣味を紹介。
・同じレベルの他のクラスと合同で、ミニスピーチ会の開催。
・地元の大学生に教室に来てもらって、9課までのテーマで話して交流する。その際、入学時から（卒業するまでの）作品が一つのファイルに入れてある「ポートフォリオ」を活用しながら話す。
・地域のボランティア団体の方をビジターとして教室に招いて、趣味についてグループ内発表を行って、交流する。